



〇〇〇もんずら

奥島教育長コラム No.15 2024. 6.1

ゆっくり長生きパワー

庭木や生垣でなじみのイチイ（オンコ）の木は、平成元年6月14日**村の木**として制定されています。

《夏期冷涼な太平洋からの気象による霧の多いところを好み、年輪はまろやかで木肌は美しく、材は最高級品とされ、極めて品格の高い木である。》

尻屋八幡宮・イチイ 推定樹齢 400 年

平成 20 年東通中学校の校章にもなりました。



村の木である「イチイ」の年輪の緻密さと材の強度、そして、柱目の美しさと加工の容易性は、新しい教育を目指す東通中学校の求める生徒像と重なる。優しさとたくましさ兼ね備えたイチイ葉に守られ、さまざまな可能性を秘めながら、身も心も大きく成長して欲しいという願いを込めている。

また、葉の内側に守られた 29 個のイチイの実は、全集落の地域の数を示しており、村の地域と美しい自然に囲まれた環境を表現し、生涯にわたり生まれ育った東通村を誇りに思い、愛する人間になって欲しいという願いを込めている。

イチイは、大抵は山地に自生し、暗い林の中で 1, 2 本ずつばらついて生えています。あまり光が届かないところで育つために、成長は遅く高木になるには 100 年以上かかると言われています。イチイの葉は、冬の寒さの中でも緑に輝いています。秋から冬に向かって葉の中に甘味成分の「糖分」を増やし、冬の寒さにそなえます。糖分が増えれば増えるほど凍りにくくなります。厳しい冬を乗り越えたイチイは新たな生長を繰り返し、強く美しい木に育っていきます。花期 3-4 月、雌雄異株、小型の花、果期 9-10 月。赤い湯呑の中に丸い種が入っているような感、鳥が食べて排泄されると発芽しやすくなると言われています。



【参照:Wikipedia 他】

今年の目標：イチイの雄花雌花を見つけること、尻屋八幡宮のイチイに会うこと。